

見て・食べて・遊んで！イベントいっぱい

親子の笑顔広がる「こどもまつり」

自然にふれる喜びと子育ての楽しみをみつけようと、第6回こどもまつりが11月5日、高原の家七塚で行われ、多くの家族連れで賑わいました。

庄原市保育所保護者会連絡協議会をはじめ市内の各種団体が構成するこどもまつり実行委員会が、子どもも親も楽しめるイベントにしようと企画。

森の遊び場では子どもたちの笑い声が響き、自然の素材で作るコーナーでは子どもだけでなく大人も夢中になって遊ぶ姿が印象的でした。

その他、田森・八幡保育所園児による「ちびっこ神楽」や、子育てサークルなどのパネル展、バザー、動物ふれあいコーナーなど、参加した家族は各イベントを心ゆくまで楽しんでいました。



ちびっこ神楽



森の遊び場で「しの竹鉄砲づくり」

各地域の「そば」を食べ比べ

庄原の新そばを楽しむ会

市内各地域のこだわりの「そば」を味わおうと、「庄原の新そばを楽しむ会」(楽笑座友の会主催)が11月11日、楽笑座で行われました。

市内6地域から、備後西城そば好き会(西城)、二八そば加工所(比和)、下領家自治振興区(総領)、一寸そば屋(庄原)、口和そばの会(口和)、そば工房みじゅくもん(東城)が出店。

ザルそばに辛味大根をすりおろしたのものや、甘辛い温かいダシで食べるそばなど、お客は新そば独特の風味や粘りを味わいながら、太さや喉ごし、ダシの違いを楽しんでいました。

昼限定の営業でしたが、440杯のそばを販売。中には一人で11杯食べた人もいました。



楽笑座



そば工房みじゅくもんのそば打ち



公園をめぐって健康づくり

けんこうウォーキングin 国営備北丘陵公園

けんこうウォーキングin国営備北丘陵公園が10月22日、大芝生広場で行われました。

スタート前に、正しいウォーキング講座が行われ、参加者約450人が花の広場やオートビレッジなど公園を一巡りするファミリーコース(5km)と健脚コース(8km)を気持ちよく歩きました。

また、グアム旅行などの素敵な賞品が当たるお楽しみ抽選会や骨密度測定など各イベントを楽しみました。

母衣や武者100人が城下町を練り歩く

東城の華やかな伝統行事「お通り」

11月3日、東城の市街地中心部で、伝統行事「お通り」が開催されました。

東城小学校グラウンドでは、比婆荒神神楽の舞いや日舞、野点の披露、鉄砲隊による演武が行われ、オープニングを飾りました。その後、武者やサザンカの花飾りを挿した母衣など総勢100人余りの行列が、城下町の風情が残る町並みを約3km練り歩きました。

東城の「母衣」は、もともと戦場で武士が身に着ける矢よけ用の武具でしたが、時代の流れとともに、母の衣で包むという意味の装飾品になったといわれています。

見物客は、鉄砲隊が放つ大砲や鉄砲の音に歓声をあげたり、華やかな母衣やかわいらしい華童子の行列をカメラに収めたりしました。また、沿道の子どもたちは、「きれいで、かわいいね。私もやってみたい」と話していました。



武者行列



市長が殿様役に

城下町東城をアートで彩る

東城まちなみぶらり散歩ギャラリー

10月28日から11月5日までの9日間、東城のまちなみがギャラリーになりました。

初日のオープニングでは、東城保育所園児の『お通り』と田森ちびっこ神楽塾の舞を披露。期間中、各商店や民家、空店舗などに、刺し子・人形・陶芸などが展示されました。



貴重な器が並び



観光客で賑う商店街

訪れた方は、展示作品を見ながら、まちなみに残る旧家のたたずまいや各家の骨董品など、最近ではあまり目にすることのできない品々に感心。また、地域の方々の温かいおもてなしに、「商店街に力があっていい町だ」との声も聞かれました。

期間中、五品獄城跡も色づき始め、紅葉と合わせて城下町東城をアピールしました。

各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

カメラレポート



上野総合公園での清掃活動

「シルバーの日」、ボランティアで汗を流す 庄原市シルバー人材センターが清掃活動

庄原市シルバー人材センターの会員206人が10月4日～21日、市内の公園、グラウンド、支所などで、草刈りや清掃などのボランティア作業を行いました。

これは、シルバー人材センターの活動をアピールしようと、毎年10月の第3土曜日を「シルバーの日」に設定。この日を中心に各地域でボランティア活動を続けています。

21日には、94人が参加し、上野総合公園で草刈りや落ち葉の清掃などを熱心に取り組みました。

口和で日本の文化・習慣にふれる 国際交流ホームステイ

しょうばら国際交流協会が11月17日から19日の3日間、広島大学の短期留学生を招いて国際交流ホームステイ事業を行いました。

アジア地域やオセアニア、アメリカなどの大学から交換留学で訪れた9カ国14人が、口和の14家庭に宿泊。それぞれの家庭で出された地元の料理を食べ、家族のようにふれあいました。また、日本の文化を体験してもらおうと、受け入れ家庭の案内で、消防訓練・和服体験・口南小学校マラソン大会・お宮参りなどにも参加。口和の家庭を通して知った日本の文化や習慣、家族のきずなを持ち帰りました。

口和では、毎年行われるホームステイを通し、国際交流の輪が広がっています。



着物を着てお茶を楽しむ

透き通った歌声と美しいピアノのメロディ 比和人権講演会 自分らしく生きる

10月25日、比和文化会館大ホールで、比和人権講演会が開催されました。この講演会は、講師に作曲家・演奏家の前川裕美さんを迎え、『自分らしく生きる～夢と可能性を信じて～』と題して行われ、会場は161人の参加者で満席となりました。

講師の前川さんは、進行性の弱視「網膜色素変性症」という難病と闘いながら、夢をあきらめず努力を重ね、第2回ゴールドコンサート'05で総合グランプリを受賞しました。

講演では、病気に対する理解が得られず苦しんだことや、音楽の道を志したきっかけ、盲導犬グレースとの出会いなど、前川さんの体験談を話されました。

また、「パワーオブザワールド」や「フォールニューワールド」などディズニー映画の名曲や前川さんが作曲した「願い」など、アンコール曲を含め8曲のピアノ弾き語りを披露。「天使の歌声」と評された美しい歌声と心地よいピアノの旋律に、会場はさわやかな感動に包まれました。



盲導犬グレース



文化の秋、新しい郷土を発見 庄原市文化財めぐり

市内の様々な文化財を見学する「庄原市文化財めぐり」が、11月上旬の4日間行われました。

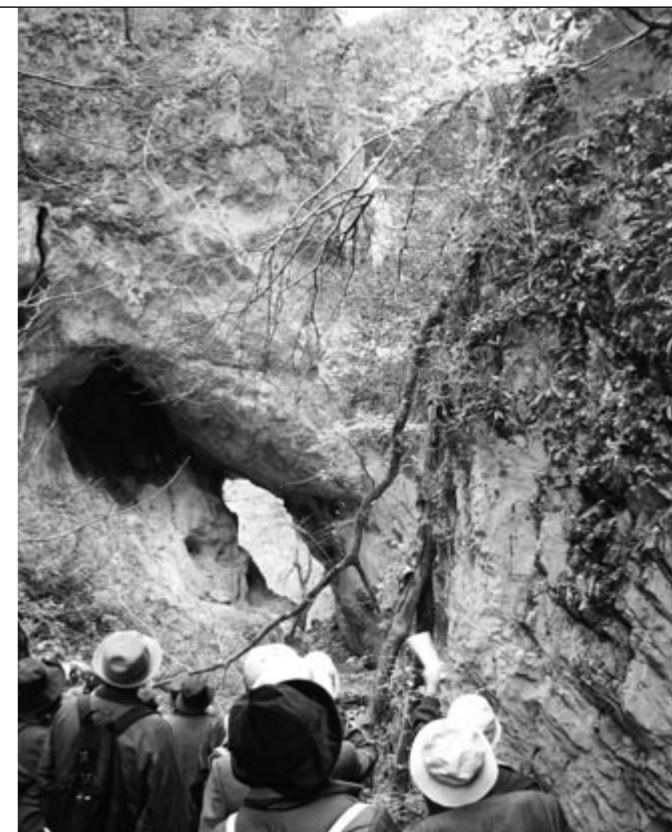
合併2年目を迎える今年を「文化財で新しい郷土を発見する一年間」と位置付け、生涯学習課が企画。夏休みに子どもを対象に行った「こども文化財探検隊」に続き、今回は大人を対象に、市内から延べ約90人が参加しました。

各支所などを出発地として、第1回「比婆山伝説とブナの森」(西城方面)、第2回「くろがねどころの城下町」(東城方面)、第3回「中世荘園を歩く」(庄原方面)、第4回「帝釈峡の奇岩と遺跡」(東城・総領方面)と4回に分けて実施。

庄原市文化財保護審議会や教育委員会職員など、専門家の説明を受けながら、かけがえのない庄原市の自然・歴史・文化を堪能しました。



円通寺本堂



帝釈峡の奇岩

長年の森林活動が高く評価 小鳥原みどりの少年団が全国育樹祭で表彰

森林学習や森林活動に取り組む小鳥原みどりの少年団が、10月21日に行われた全国緑の少年団活動発表大会で発表し、国土緑化推進機構から「緑の奨励賞」及び「松本賞」の表彰を受けました。また、翌日の広島県立森林公園において開催された第30回全国育樹祭で大会会長賞を受賞し、日本全国の緑の少年団を代表して、2人の児童が発表を行いました。

小鳥原みどりの少年団は、昭和56年、自然を愛護し育てるために協力し、社会奉仕することを目的に結成。どんぐりに関わる森林学習や親子で自然保護を訴える看板作りなどの森林活動、国道への花壇づくりと美化活動、交通安全マスコット配りなどの様々な活動を行い、このたびその活動が高く評価されました。

また、11月8日には、庄原市西城地区公衆衛生推進協議会からも感謝状が贈られました。



全国育樹祭で発表する



産地だから、一番おいしいものを まちの収穫祭「西城ふるさと祭」

10月22日、まちの収穫祭「西城ふるさと祭」が開催され、自治振興区対抗の運動会や特産品販売など、様々なアトラクションが行われました。



すくもくど

今年のメインイベントは、「西城の新米の食べ比べ」。これは、産地に暮らす私たちが、一番おいしい食べ方を知り、伝えていこうとする試み。大佐地区の減農薬・減化学肥料・水車でついた「こしひかり」、標高700mの油木地区で栽培された「あきたこまち」、ひろしま牛生産者・農青連西城支部が有機肥料で育てた「こしひかり」ヒバゴン米の三種の新米が「かまど」や「すくもくど」で炊かれ、来場者にふるまわれました。

甘味、粘り、香りなど、いずれも深い味わいと特徴を備え、食べ比べの参加者からは、「どれも甘味があっておいしい」「おこげが懐かしい」「すくもくどのご飯は初めて」など、米のおいしさに驚きの感想が寄せられました。



賑わう出店ブース



永川投手からアドバイスを受ける

備北丘陵公園に キャッチボールエリア誕生 カープの選手が少年野球教室

国営備北丘陵公園に誕生したキャッチボールエリアを広くPRしようと11月12日、広島東洋カープの選手の指導で庄原少年野球教室が行われました。

市内9つの少年野球チームから約130人が参加。庄原市カープ応援隊の協力で招いた永川・高橋(建)両投手、山本捕手、嶋・森笠両外野手から、ボールの投げ方や捕り方などを教わりました。また、似顔絵キーホルダープレゼントのほか、カープグッズが当たるお楽しみ抽選会には観客を含め約600人が参加しました。

このキャッチボールエリアは、近年インターネットやテレビゲームなどの影響により、外で遊ぶ子どもたちが少なくなっていることから、(社)日本公園緑地協会を事務局とするキャッチボールのできる公園づくり推進会の助成により整備されました。

森林・林業体験学習の森を整備 森の学校高野分校「豊かな里山づくり」

11月3日、森の学校高野分校(庄原市林業研究グループ連絡協議会主催)が、高野町和南原で開校されました。

この取り組みは、林野庁の事業の一環として、「地域の後継者を育てよう」をテーマに実施。当日は、地元の高野町森林・林業研究会、和南原緑の少年団、和南原子供会から、小・中学生27人と大人30人が参加し、松の植林地での枝打ちと広葉樹林の森を整備しました。手造りトイレやぶらんこ・ターザンロープなどが設置された広葉樹の森では、ネイチャーゲームなども体験し、終日森の中に歓声がこだましました。

指導にあたった広島県指導林家の前田正人さんは、「この機会に、身近な森林と自分たちの関わりについて理解し、地域の後継者になってほしい」と話していました。

今後この整備された森で、里山を活かした森林・林業体験学習が期待されます。



紅葉の中、バイクテクニックを競う 第11回水源の森ツーリングトライアルinひわ

11月5日、全国各地から74人が参加して、水源の森ツーリングトライアルin比和が開催されました。このトライアルは、自然の美しさを楽しみながら競技を通じて選手同士やスタッフが交流し友情を深めることを目的に行われ、今年で11回目を迎えました。

参加者は、技術やバイクの排気量などにより3クラスに分かれ、比和町内の林間に設けられた30秒クッションで腕前を競いました。紅葉シーズン真っ只中の美しい山々を、華麗なテクニックで疾走するライダーたちに地元から大きな声援が送られました。



41年の歳月を経て完成 灰塚ダム竣工式

総領町、三次市三良坂町、吉舎町にまたがり建設されていた灰塚ダムが完成し、竣工式が11月11日に三次市三良坂町のダム堰堤付近の広場で開催されました。総領の関係住民など約600人が出席し、完成を祝いました。

灰塚ダムは、洪水調整、水道用水源の確保などを図るため、建設省(現在は国土交通省)の直轄事業として進められたもので、広島市民球場150杯分の水を貯めることができます。

昭和40年の予備調査開始以来、数々の困難を乗り越え、41年の歳月を経て完成しました。滝口市長は、式典で「先祖から受け継ぎ、守り続けてきた愛着のある地域の中で、田や畑を耕し営々と暮らしてこられた地元関係者の方々への影響は大きいものがありました。水没された地元関係者のご支援、ご協力に対し、心より感謝の意を表します」と述べました。

今後、総領地域のシンボルとして、訪れる人々に憩いとやすらぎを提供する美しいダムとしても期待されます。



ホームランバットの木を育てよう アオダモの杜植樹祭

"灰塚ダム湖畔にホームランバットの木を育てよう"と、アオダモの杜づくり実行委員会が11月19日、灰塚ダム湖畔(総領町稲草)の「なかつくに公園」で、アオダモの杜植樹祭を開催しました。

バットの原料となるアオダモなどの植樹に、市内の少年野球チーム約60人が参加。広島東洋カープの松田オーナー、ブラウン監督、朝山東洋コーチ、末永真史選手、井生崇光選手と一緒に、将来バットとなる木に育つようお願いしながら、苗木211本を約700メートルの遊歩道沿いに植えました。

植樹の後、餅つきや田舎の里自治会の皆さんが用意した豚汁とぜんざいで昼食を食べながら、カープ選手と少年野球チームの子どもたちとの交流が行われました。

「なかつくに公園」は、平成19年4月に完成予定です。



ブラウン監督と植林